

## 平成30年度 実施事業の概要

施設名: 国立妙高青少年自然の家
教育事業名: 「MYOKO ボランティアキャンプ」
期間: 5月19日(土)～5月20日(日) (1泊2日)
対象及び参加人数: 自然体験活動や青少年教育に興味関心のある者 43名(大学生41名、高校生2名)
目的: 講義や演習、野外活動体験等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。
事業概要: MYOKO ボランティアモデルをもとに、ボランティア養成事業として実施した。上越教育大学、新潟青陵大学、清泉女学院短期大学、信州大学等の大学・高等学校から、43名が参加した。 ボランティア活動の技術では、課題解決型野外炊事(びっくりディナー)を実施し、単純な野外炊事では学ぶことのできない視点を学ぶことができた。また、9名の先輩ボランティアが支援し触れ合うことで、参加者にボランティアの魅力をもっと伝えることができた。
成果: 機構の共通カリキュラムをもとに事業を実施する中で、ボランティアに対する理論や知識を習得するとともに、アイスブレイクを行うことで、43名の参加者がコミュニケーションを十分にとれるように進めた。平成28年から実施している、「妙高独自の指導者養成制度の構築」の一環で作成した「MYOKO ボランティアモデル」に基づき、先輩ボランティアがロールモデルとして機能し、ボランティアの魅力をもっと感じてもらうことができた。 今年度は、上越教育大学、新潟青陵大、信州大に加え、清泉女学院短期大学等、複数の大学・高等学校の学生が参加し、多様性のある効果的なグループワークを展開することができた。 また、ボランティア活動の技術においては、課題解決型野外炊事を実施し、通常の野外炊事では学ぶことのできない体験を提供することができた。課題解決型の野外炊事は、気温が低く、雨がちらつく劣悪な状況ではあったが、プログラムの持つ教育効果が活き、集中力を切らすことなく実施することができた。このプログラムは参加者の独創性と意欲を育むプログラムであるが、参加者のジェネリックスキル(社会人基礎力等)の醸成につながる取り組みでもあったと考えられる。 新潟青陵大学・中野講師の講義では、ボランティアの意義について、グループワークを通して学ぶことができた。体験と振り返りをこまめに繰り返しながら、充実した2日間のプログラムを展開することができた。
    <p>協力してびっくり野外炊事に挑戦    おいしいごはんができました    中野講師の講義の一コマ    先輩ボランティアの発表</p>
課題: 今年度も一定の新規ボランティアの確保ができた。今後も引き続き「ボランティア育成の妙高モデル」に基づいた取組を実践していきたい。信州大学の参加者が、例年減少傾向にある。信州大学は、施設から最も近い総合大学であり、教員を目指す学生も多く在籍していることから、次年度にむけて広報戦略を練っていく必要があると考えられる。加えて、今年度から受入を開始した高校生のボランティアの確保についても近隣の高等学校等と連携し、情報収集に努めたい。